

けんぽく

第27号[平成28年2月号]

県北地方の「食」と「ふるさと」新生運動に関する情報をお知らせします。



平成28年2月29日発行

「食」と「ふるさと」 新生運動ニュース

編集・発行 福島県県北農林事務所

◆ 顆粒大豆を使用した料理教室が開催されました！

平成28年1月28日（木）、新ふくしま農業協同組合北信支店において、福島地区生活研究グループ連絡協議会主催の、顆粒大豆を使用した料理教室が開催されました。

同協議会では、今年度、県の「農村女性活動再生事業」を活用して常温で保存できる顆粒大豆を試作しています。この料理教室は、顆粒大豆の料理方法を知ってもらい、大豆の消費拡大を図ることを目的として開催されました。当日は、新ふくしま農業協同組合の各営農経済センター生活指導係の女性職員25名が参加しました。

講師には、月刊誌「家の光」の料理監修を務めている小川聖子先生をお招きしました。先生の指導の下、顆粒大豆を材料に使用した「リンゴ入りマドレーヌ」、「生春巻」、「ひき肉の磯辺焼き」、「卵とじスープ」の4品を作りました。



講師の小川聖子先生(中央)

でき上がった料理は全員で試食し、上々のでき栄えに参加者は皆満足そうでした。今後、参加者に顆粒大豆を使用した料理を広げてもらうことで、大豆の消費拡大につながることを期待できるイベントとなりました。



試食の様子

(農業振興普及部)

◆ 「もろこし料理コンクールレシピ集」が発行されました！

平成28年1月30日（土）、昨年の10月に開催された「白根再発見 もろこし料理コンクール」に出品された料理のレシピ集が発行されました。



レシピ集の表紙

このレシピ集には、伊達市梁川町白根産のもろこしの粒や粉を活用した料理（おかず部門23点とスイーツ部門22点の合計45点）が全て掲載されています。料理コンクール時に多種多様な料理が出品されましたが、改めてレシピ集としてまとめると本当に多彩で、いろいろな活用ができる魅力的な食材であることがわかります。



写真もついて分かりやすい内容

今年度、県の「農村女性活動再生事業」を活用して「白根料理加工グループ みゅーるの会」が初めて料理コンクールを開催し、レシピ集をまとめ、コンクールの参加者や白根地域全戸に配布しました。部数に限りがあるので、希望者等に配布できないのが残念ですが、伊達地域の各交流センター等で閲覧できますので、ぜひ御覧ください。

なお、みゅーるの会では、多くの人に手軽にもろこしを食べてもらいたいと考え、もろこしを使った加工品の開発にも取り組んでいます。すぐに商品化

はできませんが、今後とも白根産もろこしで地域を活性化していきます。

※材料の「もろこし」は伊達みらい農業協同組合白根支店（電話 024-577-0312）にて販売しています。

（伊達農業普及所）

これらは伊達みらい農業協同組合の農産物直売所「みらい百彩館 んめ〜べ」で翌々日の2月14日（日）から販売となりました。

あんぽ柿の新たな商品開発により、消費拡大がますます期待されます。

（伊達農業普及所）

◆「あんぽ柿6次化商品発表会」が開催されました！

平成28年2月12日（金）、伊達市保原町のセレビアスカイパレスにおいて、伊達みらい農業協同組合が「あんぽ柿6次化商品発表会」を開催しました。



あんぽ柿6次化商品発表会の会場

伊達地域の冬の特産品であるあんぽ柿は、原発事故の影響で加工自粛をした期間もありましたが、全量検査体制等の整備により出荷ができるようになり、出荷量も徐々に震災前の水準に近づいています。

このような状況の中、あんぽ柿の更なる消費拡大を図るため、地元の製菓業者3社の開発協力を得て、和菓子は柿入れシリーズとして3種類、洋菓子はKaki入れシリーズとして4種類、合計7種類の6次化商品を開発しました。



発表されたあんぽ柿6次化商品

柿入れシリーズ（和菓子）	Kaki 入れシリーズ（洋菓子）
・招福 柿入れどき （写真下段中）	・Kaki 入れブッセ （写真上段右）
・招福 柿入れ大福 （写真下段左）	・Kaki 入れカトルカール （写真中段）
・柿入れ和風ドーナツ （写真上段左）	・Kaki 入れトリュフ ・Kaki 入れショコラ （写真下段右）

◆おいしいしいたけを届けたい！こだわりの原木しいたけ栽培の取組

当農林事務所管内で、東日本大震災及び原発事故からの農業復興に取り組む「がんばる農林業者」を御紹介します。今回は、原木しいたけの再生産に取り組む伊達市の3名の生産者です。

伊達市では、地元の木を使ったしいたけの原木栽培が盛んに行われていました。しかし、原発事故の影響により、伊達市の原木しいたけは出荷することができなくなってしまいました。

齋藤憲一氏、大橋茂美氏、牧野善治氏の3名は、それでも「自然豊かなこの地でしいたけの原木栽培を続けたい」と、施設内での試験栽培に取り組み、平成26年7月に、県の定める管理計画に基づき管理されるしいたけとして、出荷制限が解除になったことから、出荷が可能になりました。



左から牧野さん、齋藤さん、大橋さん

安全でおいしい原木しいたけを栽培するため、県外産の原木を使い、放射性物質の2次汚染を防ぐため、新設したハウスの中で、植菌から仮伏せ、本伏せ、発生、収穫、休養までの一連の作業を、散水や通気に気を配りながら行っています。特に夏場は、ハウスの中が35度以上の高温になると、しいたけ菌は死んでしまい、その後しいたけの発生、収穫ができなくなってしまうので、温度を下げるため遮光資材を活用し、朝晩散水をするなど、まめに手をかけています。

また、3名は、「福島県原木椎茸再生産をめざす会」の中心メンバーとして、原木しいたけのおいし

さを消費者にPRしたり、原木栽培の技術の向上に積極的に関わっています。都内中央区日本橋にある福島県のアンテナショップや地元のスーパー、直売所で原木しいたけの試食や対面販売を行い、消費者に直接おいしさを伝えたり、施設内での栽培について、お互いに生産状況を見学・意見交換をして、安定した生産量や品質の確保に努力されています。

齋藤氏、大橋氏、牧野氏の言葉からは、「やっぱり味が違う。しいたけを食ってもらえば良さが分かる」、「自分の作った原木しいたけのうまさには、自信がある」、「原木栽培を一度やめたら、もう一度始めることは難しい。やめずに続けてきてよかった。このしいたけを味わって欲しい。」と原木栽培へのこだわりや自信が伝わってきます。



おいしそうな原木しいたけ
(森林林業部)

◆「平成 27 年度県北地方農家民宿セミナー」を開催！

平成 28 年 2 月 8 日（月）、二本松市の道の駅ふくしま東和会議室において、福島県県北地方振興局及び当農林事務所の主催による「平成 27 年度県北地方農家民宿セミナー」を開催しました。当日は、農家民宿の既存開業農家、新たに開業を希望する農家、関係機関など、約 50 名の方に参加いただきました。

セミナーでは、まず、一般社団法人 移住・交流推進機構（JOIN） 総括参事で、農都交流プロデューサーである石川智康氏より、「農都交流における農家民宿の力」と題して、御講演いただきました。講演では、都会に住む人々にとって、農村とそこに暮らす人々がいかに魅力的に感じられるか、



石川智康氏の講演

都市と農村との交流における農家民宿の重要性などについてお話をいただきました。

その後、二本松市の農家民宿「大野農園」の大野美和子氏と、本宮市の農家民宿「森さん家」の森澄江氏より、農家民宿を開業するまでの経緯や実際に受け入れをした感想などについて、事例発表をしていただきました。

セミナー後半には、「農家民宿開業に係る手続のポイント」や、農家民宿開業に関する申請・許可などについて、管内の各消防署や県北保健福祉事務所、県北建設事務所による「個別相談会」を行いました。



個別相談会の様子

都市と農村との交流等の受入先として、農家民宿に大きな役割が期待されています。今後も管内の農家民宿の開業が増加し、都市と農村との交流が活発化することが期待されます。

（企画部）

◆「果実酒醸造に向けた勉強会」を開催！

平成 28 年 2 月 2 日（火）及び 9 日（火）、当農林事務所伊達農業普及所 1 階会議室において、当農林事務所主催の平成 27 年度地域産業 6 次化推進事業地域特産品創出活動「果実酒醸造に向けた勉強会」を開催しました。

この勉強会は、昨年に引き続き開催されるもので、伊達市の果樹農家が中心となり、今年度、管内の 2 次及び 3 次事業者が加わり、合計 22 人のメンバーで全 5 回開催される予定です。

第 1 回勉強会（2 月 2 日（火））では、ふくしま路ビール代表取締役 吉田重男氏より「酒造りについて」と題して、ふくしま路ビールの取組と酒税法等について講義がありました。果実酒の酒税法上の位置付けや、販売免許の取得方法、マーケット・インの考え方による商品開発の大切さなどの話がありました。

第2回勉強会（2月9日（火））では、三菱復興支援財団が、昨年10月に郡山市に竣工した「ふくしま逢瀬ワイナリー」から、事業推進チームリーダー 中川剛之氏及び福島プロジェクト担当 佐々木宏氏をお迎えして「ふくしま逢瀬ワイナリー事業について」と題して講義がありました。ワイン用ぶどう栽培の取組など、参加者にとって興味深く参考となる話を聞くことができました。

今後は、ふくしま農家の夢ワイン株式会社取締役 関元弘氏による勉強会、県内ワインぶどう栽培農家の現地視察等を行い、県北産の果樹を原料とした果実酒醸造を目指します。この春からワイン用ぶどう栽培を開始する参加者や、有志によるワインの仕込みなどの自主的な活動の動きもあり、今後の果実酒醸造、ワイナリー開設に期待が持てる活動となっています。



中川事業推進チームリーダーの講義

（企画部）

◆「平成27年度認定農業者等育成セミナー」を開催！

平成28年1月28日（木）及び2月10日（水）、福島市吾妻学習センター研修室において、福島市、川俣町と当農林事務所の共催により「平成27年度認定農業者等育成セミナー」を開催しました。

同セミナーは、認定農業者や新規就農者等を対象に経営管理能力の向上や法人への誘導を図ることを目的として開催したもので、多数の農業者が参加しました。



宮村昌吾氏の講演

1月28日（木）には、株式会社オーレンスパートナーズチーフコンサルタント・宮村昌吾氏から、

「農業経営の法人化と税務」と題して講演いただき、法人化のメリットや社会保険制度等についての説明がありました。

また、2月10日（水）には、普及指導協力員で、税理士法人寺田共同会計事務所税理士・深瀬善太氏から「複式簿記と農業税制」と題して講演いただき、複式簿記や青色申告制度、実務上の決算、確定申告の注意点等についての説明がありました。



深瀬善太氏の講演

いずれのセミナーも、出席者からは多くの質問が出され、講演後に行われた個別相談にも多数参加するなど、農業経営改善に向けた積極的な姿勢が目立つ有意義なものとなりました。

今後は、セミナーの内容を活用した農業経営の更なるステップアップが期待されます。

（農業振興普及部）

◆「平成27年度伊達地域農業普及推進懇談会（第2回）を開催！

平成28年1月26日（火）、伊達市保原町の福島県伊達合同庁舎において、平成27年度伊達地域農業普及推進懇談会（第2回）を開催しました。当日は県、管内市町、伊達みらい農業協同組合、伊達果実農業協同組合、伊達地方農業士会、各市町認定農業者会、福島県普及指導協力員の計37名が出席しました。10月実施の第1回に続いて開催されるもので、出席者から多くの御意見や御要望をいただきました。



平成27年度普及指導活動実績等の報告

懇談会では、平成27年度普及指導活動の6課題の各取組結果のほか、震災後の5年間における主な

普及指導活動の成果や、平成 27 年度新技術実証の成果等を説明しました。その中の一つ、伊達地域特産あんぽ柿の産地再生の取組の説明では、平成 23 年 3 月の原発事故によるあんぽ柿加工自粛以後、関係機関・団体が一丸となって行った汚染原因の解明とリスク低減対策、全量検査体制の構築などの活動をスライド資料により紹介しました。出席者からは、あんぽ柿の今後の見通しについて質問があったほか、品質確保のための技術的アドバイス等もいただきました。なお、今回説明されたあんぽ柿の産地再生の取組については、翌 27 日（水）に福島県農業

総合センターで行われた農業普及指導活動成果発表会でも発表し、産地の現状を伝えました。



あんぽ柿産地再生取組の説明

引き続き、出席者からいただいた多くの御意見や御要望を参考として、普及指導活動を効果的かつ効率的に行っていきたいと考えています。

(伊達農業普及所)

講演会では、東京大学大学院農学生命科学研究科教授 鈴木宣弘氏から「TPP の影響と今後の展望について」の講演があり、参加者は熱心に聞き入っていました。

続いて、農業実践活動発表として、県立安達東高等学校の生徒から「地域農業資源の発掘と普及～岩代伝統野菜を守る活動～」、「農業再生プロジェクト～オウトウの根域制限栽培に関する研究～」、「やってやるぜ！養蜂！～地域をまきこんだ安達東・再生プロジェクト」の 3 つの研究発表がありました。次に、本宮市と東日本大震災前から交流活動を行っている相模女子大学学生と卒業生から「本宮市でのグリーンツーリズム体験」の発表がありました。また、

当農林事務所安達農業普及所 小泉拓真技師からは、「ミニトマト隔離床養液土耕栽培」の



発表する小泉技師

取組事例の発表がありました。

最後に、参加者全員で安達地域農業の発展に関する 4 つの大会スローガンを確認し、閉会しました。

今回の振興大会は、若い力による安達地域の多様な取組の紹介などを通し、農業者、関係機関・団体の連携が強まり、今後の安達地域農業の振興につながる一日となりました。

(安達農業普及所)

◆「第 18 回あだち地域農業振興大会」が開催されました！

平成 28 年 1 月 30 日（土）、二本松市の「安達文化ホール」において、あだち地域農業振興協議会（二

本松市・本宮市・大玉村・みちのく安達農業協同組合）主催による「第 18 回あだち地域



大会会場の様子

農業振興大会」が開催されました。

当日は農業者等 150 名の参加があり、講演会や農業実践活動発表、大会スローガンの確認が行われました。

ふくしまから はじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動県北地方推進本部の構成員活動紹介

みちのく安達農業協同組合

“お客様との会話をしながら県産農産物や農産加工品の安全性をPR”

みちのく安達農業協同組合では、行政と連携した販売促進活動に参加しており、平成27年度は合計7回の販売促進イベントに参加しました。

今後も活動を継続しながら、お客様への情報発信をしていきたいと考えております。

◆首都圏での販売促進PR活動(東京都葛飾区)



東京都葛飾区産業祭(平成27年10月23日～25日)では、行政と連携して農産物や農産加工品の販売促進活動を実施しました。安全対策に係るパンフレットを配布したり、お客様と会話をしながら、旬で安全な農産物や農産加工品を多くの来場者の方々へPRしました。

◆地場産農畜産物の風評被害払拭活動(二本松市)



二本松市産業祭(平成27年11月14日～15日)では、行政と連携して地場産農畜産物のPRを実施しました。福島牛の試食や乳製品(牛乳・ヨーグルト)や安全対策に係るパンフレットを配布するなど、多くの来場者へPRしました。

◆イベント予告

3/1～3/3 農産物直売所こらんしょ市「ひな祭りセール」

3/15～3/20 農産物直売所こらんしょ市「春彼岸セール」

※セール期間中は、直売所会員による手作り加工品などを多数販売しますので、皆様の御来店をスタッフ一同心よりお待ちしております！

こらんしょ市	二本松市杉田駄子内 20-1	営業時間: 9:00-18:00	電話: 0243-62-4218
こらんしょ市 本宮店	本宮市本宮字戸崎 41	営業時間: 9:00-17:00	電話: 0243-63-2822

福島県県北農林事務所 企画部 地域農林企画課

電話 024-535-0382

FAX 024-536-9590

電子メール kikaku.af01@pref.fukushima.lg.jp

